

- 第16回配本 第16巻 品川区③／目黒区① [2025年7月] ISBN978-4-422-22036-9 C3325
 - 第17回配本 第17巻 目黒区②／大森区① [2025年8月] ISBN978-4-422-22037-6 C3325
 - 第18回配本 第18巻 大森区②／蒲田区① [2025年9月] ISBN978-4-422-22038-3 C3325
 - 第19回配本 第19巻 蒲田区②／世田谷区／渋谷区 淀橋区① [2025年10月] ISBN978-4-422-22039-0 C3325
 - 第20回配本 第20巻 淀橋区②／中野区① [2025年11月] ISBN978-4-422-22040-6 C3325
 - 第21回配本 第21巻 中野区②／杉並区① [2025年12月] ISBN978-4-422-22041-3 C3325
 - 第22回配本 第22巻 杉並区②／豊島区① [2026年1月] ISBN978-4-422-22042-0 C3325
 - 第23回配本 第23巻 豊島区② [2026年2月] ISBN978-4-422-22043-7 C3325
 - 第24回配本 第24巻 豊島区③／荒川区① [2026年3月] ISBN978-4-422-22044-4 C3325
 - 第25回配本 第25巻 荒川区②／板橋区／足立区 向島区 [2026年4月] ISBN978-4-422-22045-1 C3325
 - 第26回配本 第26巻 葛飾区 [2026年5月] ISBN978-4-422-22046-8 C3325
 - 第27回配本 補巻 神田区・芝区・下谷区・浅草区 関連地図 [2026年6月] ISBN978-4-422-22047-5 C3325
- ※予定は変更となる場合がございます。
- 全巻電子書籍あり
価格等は、KinoDen / Maruzen eBook Libraryの各サービスにお問い合わせください。

本集成を推薦します (50音順・敬称略)

東京に築き上げられた人工物の種類・性質と総量がそこにある



青井哲人 明治治理工学部長 (建築史・都市史・建築論)

十数年前のことだったか。火災保険特殊地図が近代東京の歴史研究に活用されはじめ、従来とは比較にならない圧倒的な解像度を私たちが手にしたのだと興奮した。保険料率算定を目的とするこの地図上では、一切の市井の建物が、規模・階数・構造・仕上といった情報をそなえる。東京に築き上げられた人工物の種類・性質と総量がそこにある。今回刊行されるのは昭和8〜15年作製の火災図群だ。近世の基盤、明治大正の建設、関東大震災の破壊と復興、大戦開期の民衆と資本の躍動……近代日本の社会・生活・経済・政治に、物質文化の側から新しい光が当てられるに違いない。そのうえ驚いたことに、印刷物の複製ではなく、手描き原因からの復刻だ。

店舗・企業の名称や業種、材質等を把握できる、この時期ではほぼ唯一の資料



牛垣雄矢 東京学芸大学准教授 (都市地理学)

戦前期の火災保険特殊地図は、個別の建物における店舗・企業の名称や業種、材質等を把握できる、この時期ではほぼ唯一の資料である。例えば「玉突き」「オランダ」「酒巴」といった店舗の業種からは、地域の地理的特徴を把握できるのみならず、その時代における人々の生活そのものを垣間見ることが出来る。同資料は、現在の東京区部の広範囲に存在しており、戦前期の東京研究では元々利用価値は大きかったものの、これまでは閲覧できるのが一部の図書館などに限られていた。この度の復刻版の発行によって、貴重な情報豊富な含む同地図が活用しやすくなり、近代東京を舞台とした研究が一層進展することになるであろう。



矢野桂司 立命館大学文学部教授 (人文地理学・地理情報科学・人文地理学会会長・日本学会議第一副会長)

東京は、1923年の関東大震災による激甚な被害を受けながらも帝都復興事業により復活するが、1945年の東京大空襲によって再度焼き尽くされる。復刻された「戦前期東京火災保険特殊地図集成」は、この2つの歴史的大災害の間で繁栄する東京都心の様子を物語る貴重な資料である。この地図は600×1000分の1の大縮尺で、一つ一つの家の形状と構造、階数、名称など火災保険料の算出に必要な情報が含まれている。近年、昭和初期東京を撮影した写真や映像がデジタルで公開されてきた。その撮影場所を本地図で特定することで、様々な資料を紐づけて都市景観を俯瞰的・総合的に復原するデジタル・ヒューマニティーズ研究に大きく貢献することは間違いない。

震災から戦災までの東京の建物利用・土地利用を復元するための絶好の素材



山田誠 京都大学名誉教授 (文地理学)

地理学の立場から都市を研究する際に、建物用途現況図や土地利用図は研究上の基本資料ともいえるべき存在である。それらの図は、行政当局の手によって総合計画・都市計画立案のための基礎資料として作成されることが少なくない。しかし戦前期については、同時期に作成された建物用途図や土地利用図を求めるとはほぼ絶望的である。今回復刻・刊行される資料群は、昭和戦前期の東京で何らかの事業を営んでいた店舗・工場等の名称を網羅的に記載した大縮尺地図の集大成であり、震災から戦災までの時期の素材となることは疑いない。広く学界に利用されることを期待してやまない。

戦災で失われた東京の街並みを
克明に記録した唯一無二の大縮尺地図
およそ90年の時を経て、ついに復刻!

◆都市整図社版火災保険特殊地図集成◆

戦前期東京火災保険特殊地図集成

全27巻 編集・解説 辻原万規彦 (熊本県立大学環境共生学部教授)



第1巻 刊行記念特別価格 110,000円 (本体100,000円+税10%)
*2025年1月31日まで。以降定価132,000円 (本体120,000円+税10%)
約1500葉の原図を原寸収録! 電子書籍同時刊行予定!



体裁●A3判上製・各巻平均400頁
定価●各巻132,000円 (本体120,000円+税10%)
配本計画●2024年4月~2026年6月 (全27回、毎月配本)

変貌を遂げつづける大都市・東京の
戦前からの歴史的変遷が読み取れ、
街並みの精確かつ立体的な復元を
可能にする、第一級の歴史資料!

●地図研究所 (のち都市整図社) が昭和10年前後から昭和30年代に作製した「火災保険特殊地図」(火保図)は、火災保険会社が火災保険の料率を算出する際に用いたと言われる大縮尺(1/1000程度)の都市地図である。建物や住宅を一軒軒訪問して作製された火保図には、現在の住宅地図のように居住者名や建物名称、地番などが記入されているだけではなく、より詳細な情報も描き込まれた。建物概形や階高、構造のほか、塀の材質、さらには消火栓の位置や道路の幅員までも克明に記録されており、都市を立体的に捉えることができる。

●火保図に類似する大縮尺の都市地図は他に存在しない。第二次世界大戦中の空襲により、戦前の東京の街並みの多くは焼失した。さらに、その後の東京の発展はめざましく、現在の東京から戦前の街並みを想像することは難しい。しかし、戦前に作製された火保図だけが戦前の東京の街並みの再現を可能にしてくれる。火保図は貴重かつ有用な地図である。一方で、戦前の東京の火保図は都内各区の図書館などが当該の区に限って複製物を所蔵していることが多く、全体像が把握しにくい上に利用が難しいことも多い。

●本集成は、火保図の利用環境の飛躍的な向上を目指し、建築史や都市史の研究のみならず幅広い用途で活用できる学術基礎資料として、現存する戦前期東京の火保図をまとめて復刻出版するものである。

おすすめします

歴史学、地理学、都市史、建築史、土木史、地図史、技術史、測量史、都市計画学、土木計画学、防災工学、社会学、文学、美術工芸史、民俗学、時代考証、映像・アニメーション製作、公共図書館、大学図書館
本集成の特長

- ◆ 地図研究所 (のち都市整図社) が昭和戦前期に作製した火災保険特殊地図 (火保図) のうち、戦災をくぐり抜けて現存が確認できた約1500葉の原図をすべて集成して原寸で復刻。
- ◆ 復刻にあたっては都市整図社が所蔵する全原図の提供を受け、一部を他の公共図書館や資料館が所蔵する原図で補完。
- ◆ 建物の構造・階高や所有者の名称、消火栓の位置、道路の幅員などが詳細に記載されており、精度なスケールでの街並みの復元が可能となるため、研究者からクリエイターまで様々な分野で汎用性が高い貴重な情報源。
- ◆ 1枚の原図は、左右2分割してそれぞれを90度回転で掲載する原寸図面、見開きで全体像が把握できる縮小図面 (約70%) の計6頁にわたって贅沢に紹介。大判原寸の迫力と閲覧の便宜を両立させた紙面構成。
- ◆ 美術工芸品ともいえる手仕事の素晴らしさを感じとれるように、モノクロではあるものの、一点物の手描きの地図をできる限り忠実に再現。
- ◆ 各巻に収録地域や地図作製にかかわるバリエーション豊富な解説を収録。全巻の解説を通読することで、火保図について網羅的な理解が可能。
- ◆ 初版少数限定出版の紙媒体と同時に電子版も刊行。国内外を問わず幅広い利用用途に対応。

編集・解説 辻原万規彦 TSUJIHARA Manihiko

1970年生まれ。京都大学大学院工学研究科環境地球工学専攻博士後期課程修了。博士(工学)。現在熊本県立大学環境共生学部教授。専門は都市史、建築史、建築環境工学。著書に『住宅街 企業が育んだ住宅地』(共著、学芸出版社、2009年)、『豪商権威と住宅街變遷圖集』(中央研究院人文社会科学研究中心地理資訊科學研究専攻中心、2019年)、『日本帝國期の建築物が語る近代史 過去・現在・未来』(共著、勉誠出版、2022年) など。

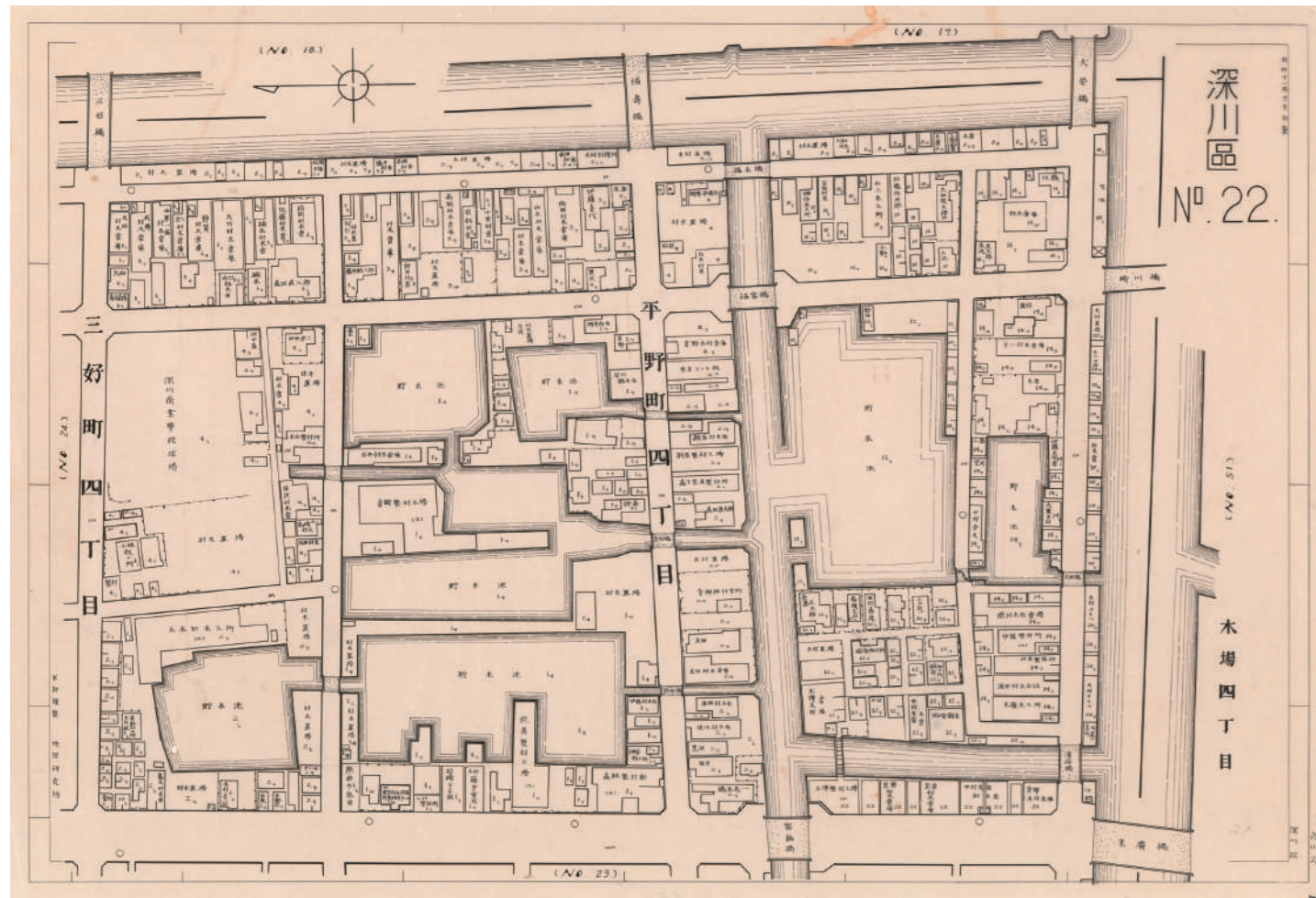
創元社 SOGENSHA since 1892

https://www.sogensha.co.jp/

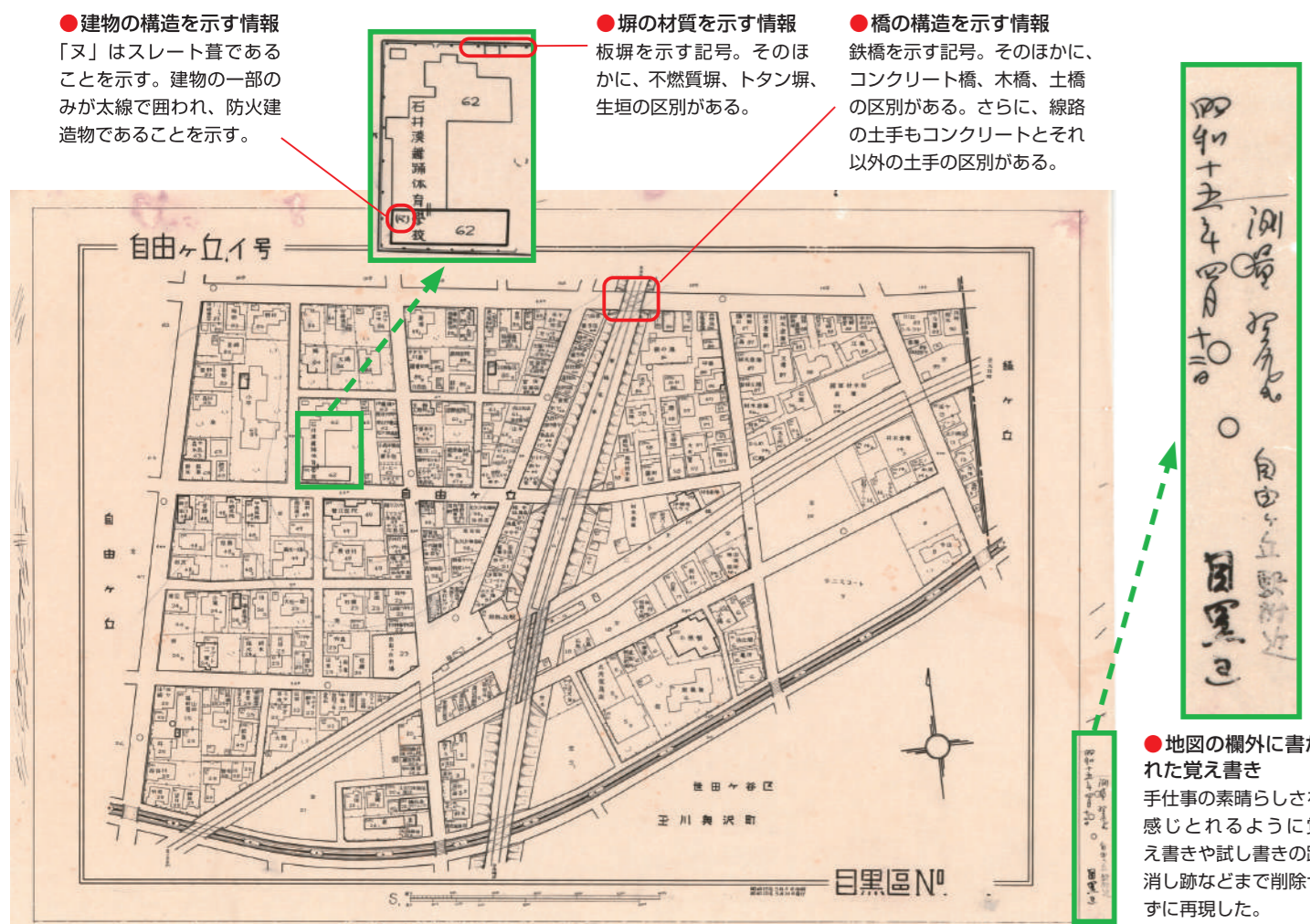
【本社】 大阪市中央区淡路町4-3-6 TEL (06) 6231-9010代 FAX (06) 6233-3111
【東京支店】 東京都千代田区神田神保町1-2 田辺ビル TEL (03) 6811-0662

〈キリトリ線〉

創元社申込書	この注文書でお近くの書店さまへご注文ください。書店ご不便の場合は直送もいたします (詳細は創元社 WEB サイトをご確認ください)。	取り扱い店名
4/2024年刊行	都市整図社版火災保険特殊地図集成 戦前期東京火災保険特殊地図集成 第1巻 麹町区① ISBN978-4-422-22021-5 C3325	冊
	刊行記念特別価格 110,000円 (本体100,000円) ⑩ *2025年1月31日まで。以降定価132,000円 (本体120,000円) ⑩	
5/2024年刊行	都市整図社版火災保険特殊地図集成 戦前期東京火災保険特殊地図集成 第2巻 麹町区②/神田区/日本橋区① ISBN978-4-422-22022-2 C3325	冊
ご住所	〒	
お名前	フリガナ	
	TEL ()	
		創元社WEBサイト https://www.sogensha.co.jp/

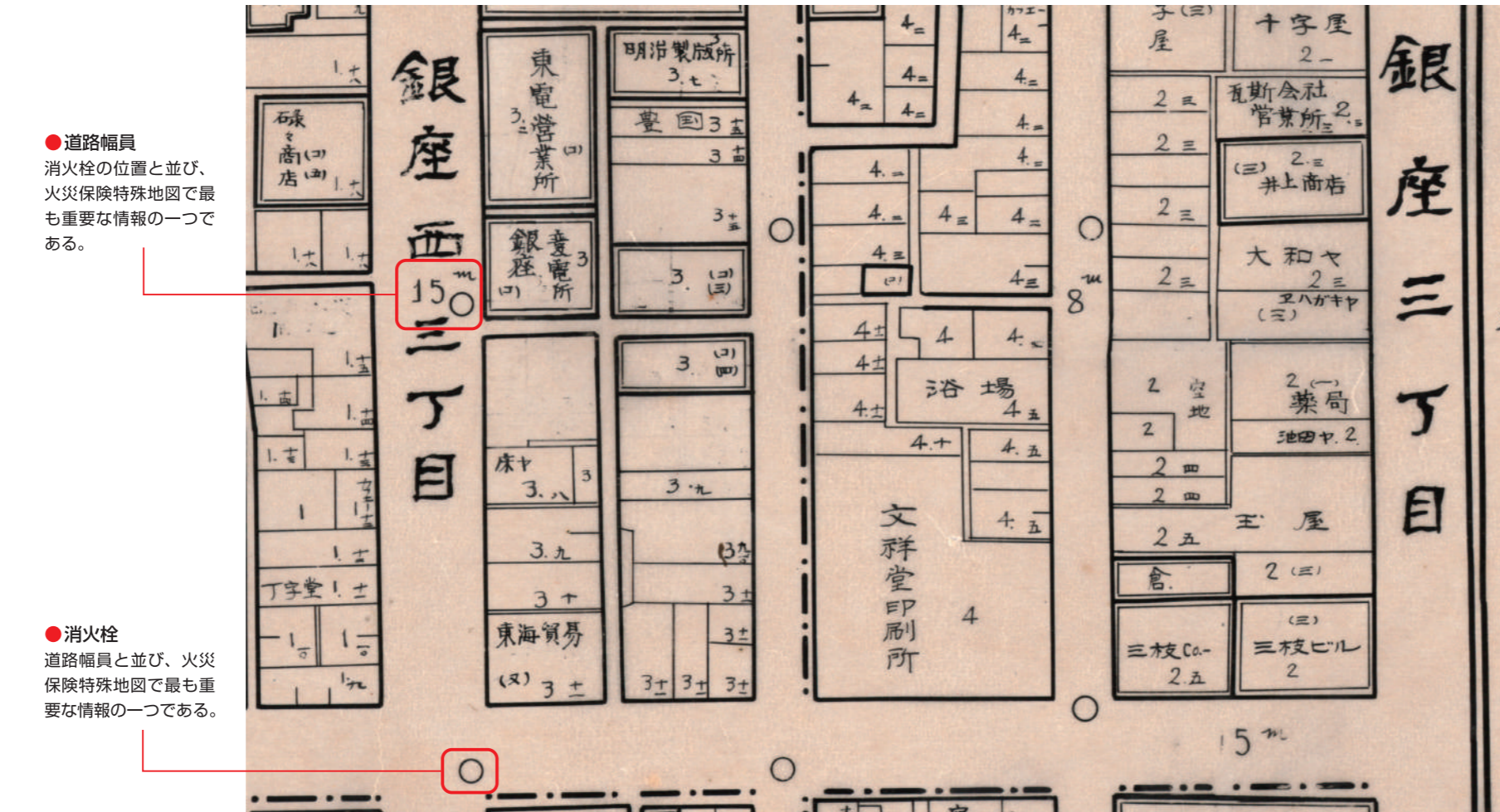


昭和11年の深川 戦前の深川区には多くの貯木池と製材工場がみられ、地図で見ると貯木池の存在感に圧倒される（縮小率24%）



- 建物の構造を示す情報 「又」はスレート葺であることを示す。建物の一部のみが太線で囲われ、防火建造物であることを示す。
- 塀の材質を示す情報 板塀を示す記号。そのほかに、不燃質塀、トタン塀、生垣の区別がある。
- 橋の構造を示す情報 鉄橋を示す記号。そのほかに、コンクリート橋、木橋、土橋の区別がある。さらに、線路の土手もコンクリートとそれ以外の土手の区別がある。
- 旧町名 火災保険特殊地図が作製された当時の旧町名が示されている。
- 建物名称 火災保険特殊地図の作製の際には、一軒一軒戸別に訪問して建物名称や居住者の情報を収集した。火災保険特殊地図の真骨頂であろう。服部時計店は和光本店となった今でも銀座のシンボルである。
- 建物の構造と階高を示す情報 「コ」はコンクリート造、「ハ」は8階建であることを示す。建物概形の太線は耐火建造物、細線は木造であることを示す。その他に煉瓦造である「レ」、ラス張りである「ラ」、土蔵造である「土」、平屋建を示す「ヒ」などの記号がある。耐火構造物であるか否かも火災保険会社には重要な情報である。
- 町丁目界 地形図などとおなじように市区界、町村界も記入されている。
- 地番 漢数字は枝番を示す。地番が記入されているので、これらの大縮尺の地図は「地番図」と呼ばれる。
- 市電と停留所 火災保険特殊地図には網の目のように張り巡らされた東京市電の路線と停留所のほか各種交通機関も詳細に記入されている。
- 高島屋付近一部拡大（縮小率45%） 現在の日本橋高島屋の敷地に比べるとかなり狭い。この後、徐々に拡張して一つの街区全体を占めるようになった。

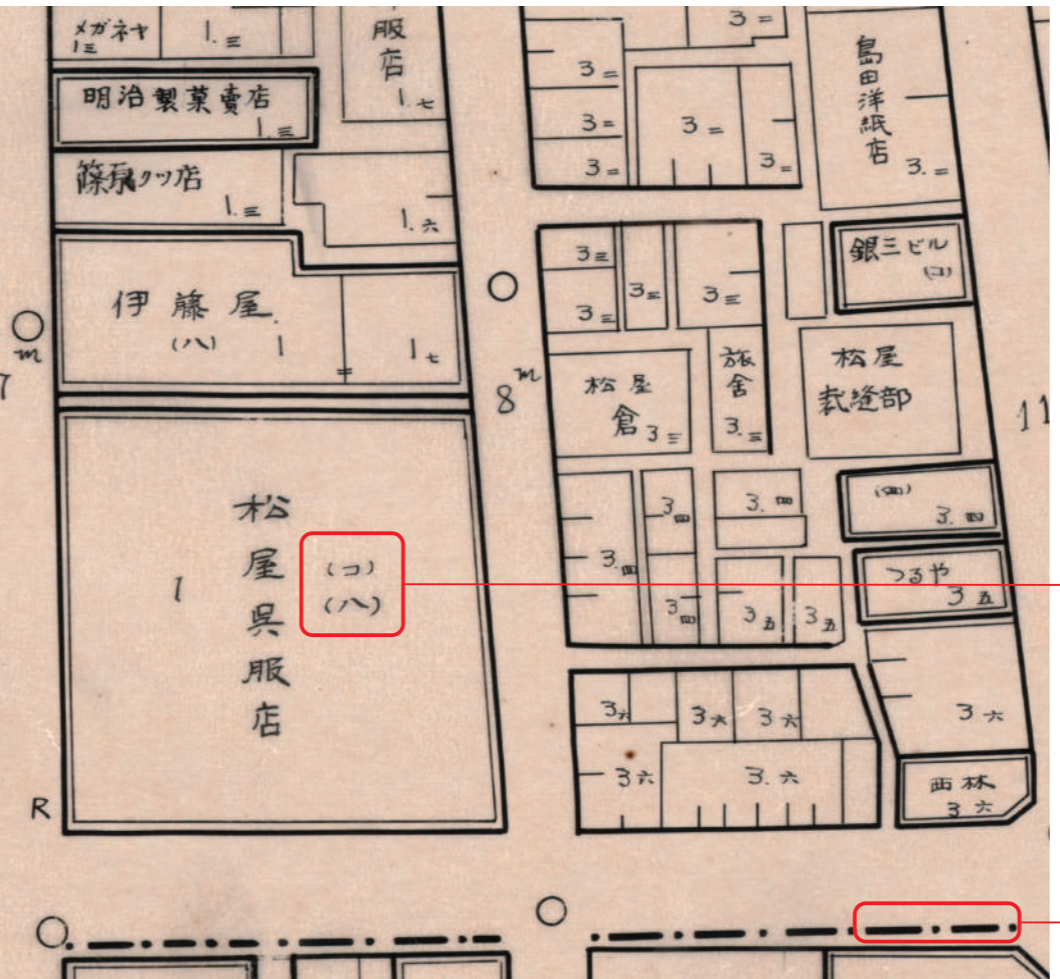
住みたい街ランキングで常に上位の自由ヶ丘 駅の西側には住宅、南側にはまだ空き地が多く、現在の街並みとは大きく違う（目黒区めぐる歴史資料館所蔵、縮小率20%）



昭和初期の銀座 現在まで残る建物や店舗が多い一方で、小さな区画は統合されてビルに変わった（今回復刻出版する原図の中でも最も古い時期に作製された地図（昭和3年作製、昭和8年修正）、原寸）。縮尺は推定1/750（地図1cm=7.5m）の大縮尺地図。

- 道路幅員 消火栓の位置と並び、火災保険特殊地図で最も重要な情報の一つである。
- 消火栓 道路幅員と並び、火災保険特殊地図で最も重要な情報の一つである。
- 旧町名 火災保険特殊地図が作製された当時の旧町名が示されている。
- 建物名称 火災保険特殊地図の作製の際には、一軒一軒戸別に訪問して建物名称や居住者の情報を収集した。火災保険特殊地図の真骨頂であろう。服部時計店は和光本店となった今でも銀座のシンボルである。

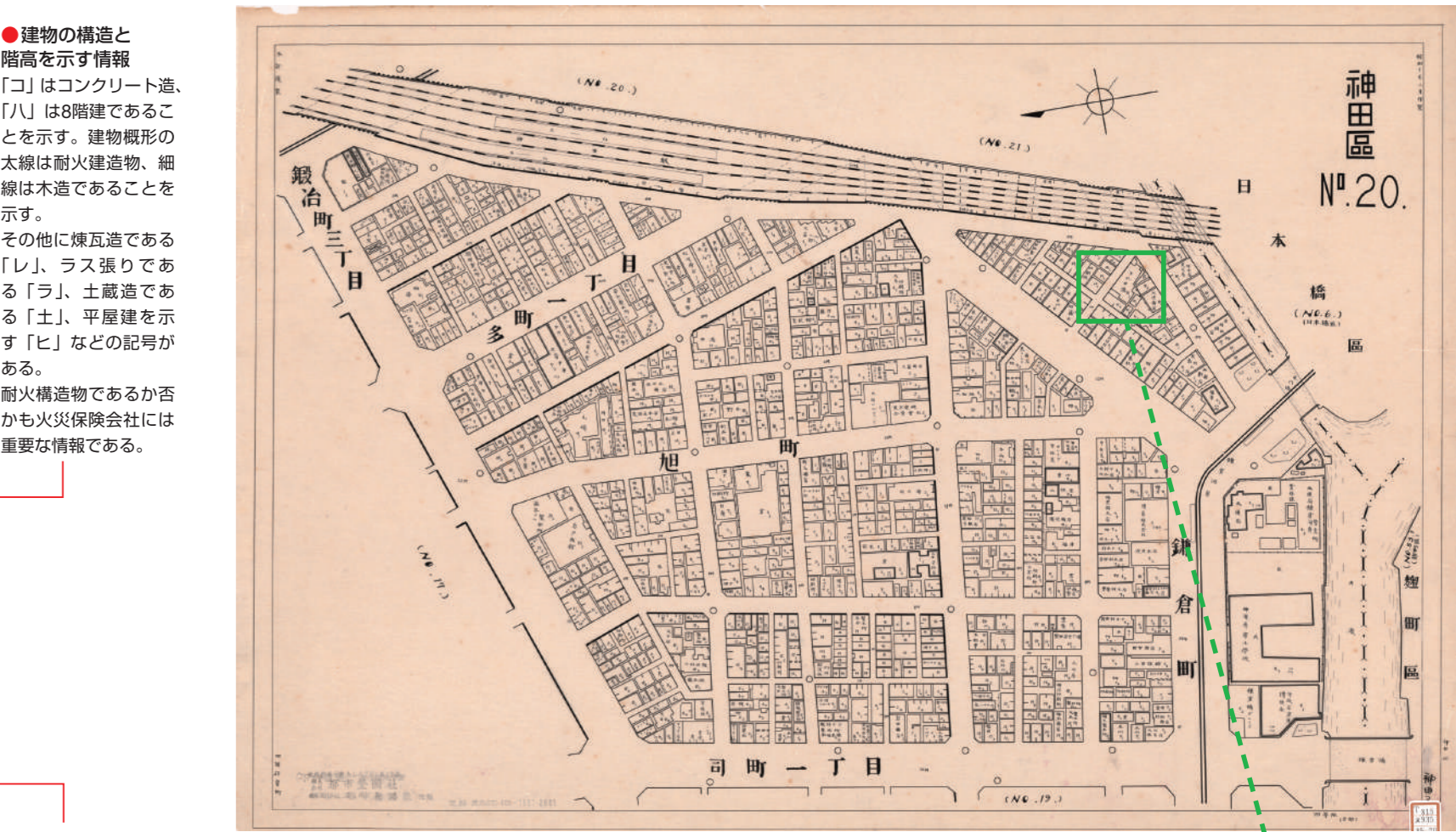
住みたい街ランキングで常に上位の自由ヶ丘 駅の西側には住宅、南側にはまだ空き地が多く、現在の街並みとは大きく違う（目黒区めぐる歴史資料館所蔵、縮小率20%）



昭和初期の銀座 現在まで残る建物や店舗が多い一方で、小さな区画は統合されてビルに変わった（今回復刻出版する原図の中でも最も古い時期に作製された地図（昭和3年作製、昭和8年修正）、原寸）。縮尺は推定1/750（地図1cm=7.5m）の大縮尺地図。

- 建物の構造と階高を示す情報 「コ」はコンクリート造、「ハ」は8階建であることを示す。建物概形の太線は耐火建造物、細線は木造であることを示す。その他に煉瓦造である「レ」、ラス張りである「ラ」、土蔵造である「土」、平屋建を示す「ヒ」などの記号がある。耐火構造物であるか否かも火災保険会社には重要な情報である。
- 町丁目界 地形図などとおなじように市区界、町村界も記入されている。
- 地番 漢数字は枝番を示す。地番が記入されているので、これらの大縮尺の地図は「地番図」と呼ばれる。
- 市電と停留所 火災保険特殊地図には網の目のように張り巡らされた東京市電の路線と停留所のほか各種交通機関も詳細に記入されている。
- 高島屋付近一部拡大（縮小率45%） 現在の日本橋高島屋の敷地に比べるとかなり狭い。この後、徐々に拡張して一つの街区全体を占めるようになった。

住みたい街ランキングで常に上位の自由ヶ丘 駅の西側には住宅、南側にはまだ空き地が多く、現在の街並みとは大きく違う（目黒区めぐる歴史資料館所蔵、縮小率20%）



現在のJR神田駅の南西側（内神田2丁目、3丁目）現在はビルが立ち並び、昭和10年には住宅が多く、木造長屋（一棟四戸建）もみられた（縮小率24%）

- 火災保険特殊地図には料理屋や蕎麦屋が数多く記入されている。料理屋や蕎麦屋などと同じように「火を使う」業種については特に丁寧に調査して記入したと考えられる。
- 火災保険特殊地図には銭湯も数多く記入されている。料理屋や蕎麦屋などと同じように「火を使う」業種については特に丁寧に調査して記入したと考えられる。
- 高島屋付近一部拡大（縮小率45%） 現在の日本橋高島屋の敷地に比べるとかなり狭い。この後、徐々に拡張して一つの街区全体を占めるようになった。

住みたい街ランキングで常に上位の自由ヶ丘 駅の西側には住宅、南側にはまだ空き地が多く、現在の街並みとは大きく違う（目黒区めぐる歴史資料館所蔵、縮小率20%）